

北海道浮魚ニュース

平成 21(2009)年度 9 号 (通巻 No.280)

2009 年 7 月 23 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ長期漁況予報発表される。

今年の日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されましたので、北海道に関連する海域の予報文および参考となる図をお知らせします。

なお、この予報は日本海区水産研究所を中心にして日本海側道府県水試が共同で行った日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果に基づいています。詳細な予報文は下記のホームページに掲載されます。

水産庁 URL : <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/index.html>

平成 21 年度 日本海スルメイカ長期漁況予報

対象期間 : 平成 21 年 8 月 ~ 12 月

対象海域 : 日本海

対象魚群 : 主に秋季発生系群

1 . 道北・道央海域 (小型いか釣り)

(1) 来遊量 : 昨年および近年平均並み。

(2) 漁期・漁場 : 概ね対象期間を通じて形成。

(3) 魚体の大きさ : 前半は近年平均より小さい。

2 . 道南・津軽海域 (小型いか釣り)

(1) 来遊量 : 昨年並み。近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場 : 10 月以降にも漁期のピークがある。

(3) 魚体の大きさ : 前半は近年平均より小さい。

近年平均 : 最近 5 年間 (2004 ~ 2008 年) の平均を示す。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、道北・道央海域では CPUE (釣機 1 台 1 時間あたりの個体数) が高い調査点が主に道北で見られ (図 1)、昨年および近年平均並みの分布密度でした。

一方、道南・津軽海域では調査の結果、CPUE が低い調査点が多く、昨年を下回りました (図 1)。しかし、6 月の漁獲量は昨年並みでした。

両海域ともにスルメイカの大きさは小型個体の分布が多く、本州沿岸の調査点でも同様のことから、漁期前半は小さなスルメイカの分布が多いと考えられます。

漁期後半については、来遊状況の変化によって、まだ来遊量の変動する可能性があります。今後の動向にご注意下さい。

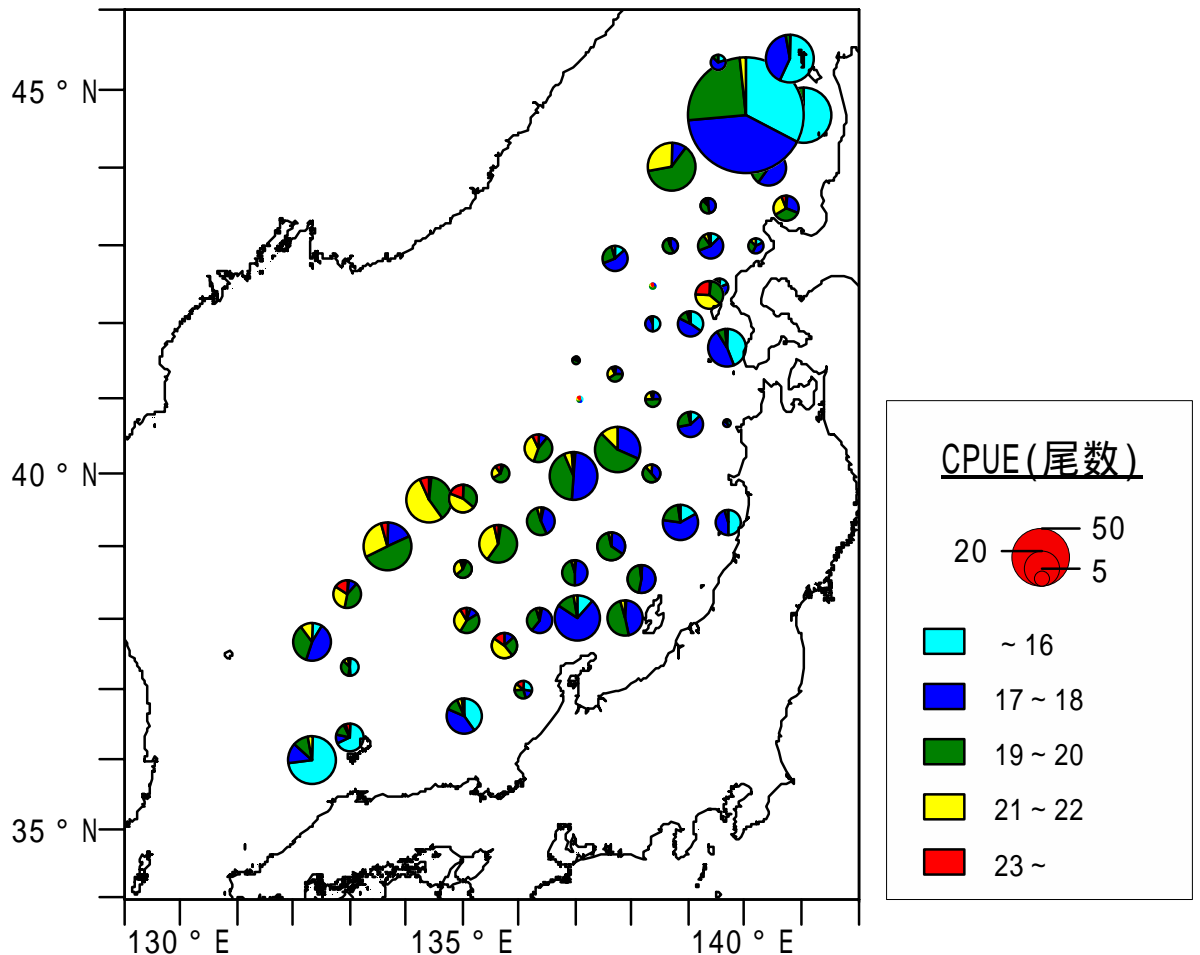


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況（6月下旬～7月上旬）
 の面積は各調査点の分布密度の指標となる CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりの採集
 個体数）を示し、 中の配色は各外套背長範囲の比率を示す。

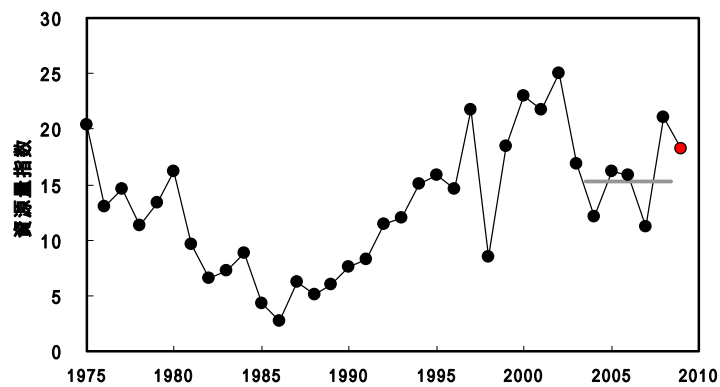


図2 スルメイカの資源量指数の変化（6月下旬～7月上旬）

全調査点の平均 CPUE を資源量指数としている。

細線は近年（2004～2008年）の平均（15.27 個体）

注）図の元データは平成 21 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報会議資料
 （独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所取りまとめ）より

（文責：中央水産試験場資源管理部、TEL:0135-23-8707、FAX:0135-23-8709）